

# 地域の防災活動への参加

災害時は「自助」、「共助」、「公助」の3つが上手く機能するかどうかで、生死を分けることになります。ここまでは「自助」について重点的に紹介してきましたが、一人でできることには限界があります。「共助」といっても、災害時に見ず知らずの人を助けたり、逆に助けられたりすることに抵抗を覚えるかもしれません。

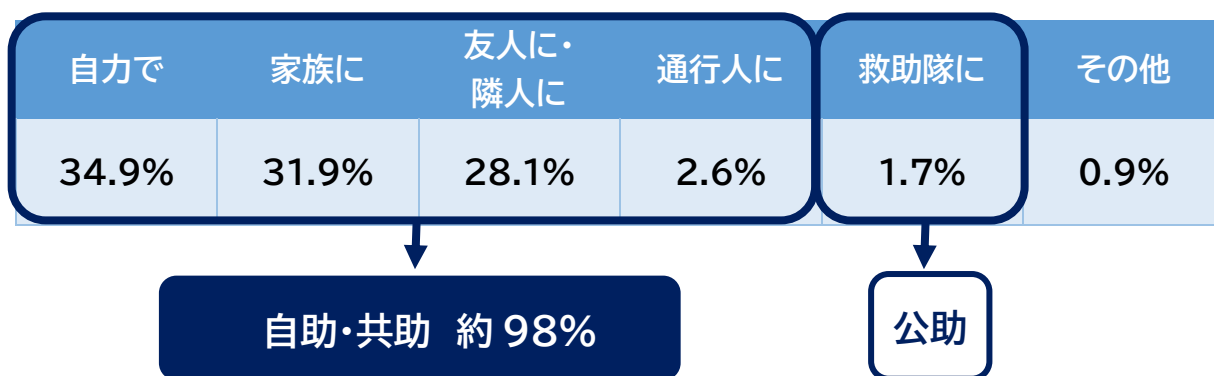
そこで、地域住民に地域のイベントや防災活動に参加してもらい、地域内で顔の見える関係性を構築することで、「共助」の土台ができます。

## 阪神・淡路大震災に学ぶ

### 生き埋めや閉じ込められた際の救助

資料「1995 年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」

(平成8年11月 日本火災学会)より作成



## 自助・共助の重要性



阪神・淡路大震災で、生き埋めや閉じ込められた人の救助の9割以上は、自力又は家族や友人・隣人・通行人などによるものでした。

大規模災害時には、住民みなさんの助け合いが必要不可欠です。地域住民に自主防災組織の活動を広報し、関心を持ってもらいましょう。

## 被害を軽減するポイント

### 地域の防災活動を知ってもらうことが大切！

現在、西宮市には多数の自主防災組織が結成され、それぞれ、地域のために様々な活動をしています。地域住民に訓練などの活動に足を運んでもらい自主防災組織の活動を知ってもらいましょう。いざという時に隣近所で助け合えることで、災害を乗り越える確率は格段に上がります。